

2020年6月

「発行開示規制の基礎的研究」

第7期 客員研究員

神戸大学大学院法学研究科 准教授

行岡 睦彦

要約

本稿は、発行開示規制の基礎にある考え方を探求するものである。従来、発行開示規制の根拠として「販売圧力」の存在が指摘されてきたが、そのどこに問題があるのか、そして、発行開示規制がいかなる意味でそれに対処しうるのか、といった基本的な問題は必ずしも検討されてこなかった。

本稿は、このようないわば古典的な問題について、①従来、「販売圧力」という用語のもとで想定されてきたであろう問題を分析するとともに、②金商法が定める発行開示規制がかかる問題をどのように緩和・解消すると考えられるかを検討し、もって発行開示規制の基礎にある考え方を探求するものである。

(掲載誌: 資本市場研究会編『企業法制の将来展望－資本市場制度の改革への提言－2020年度版』90頁(財経詳報社、2020))

- (注) 1 この内容の全部又は一部について、日本証券業協会に無断で使用(転用・複製等)及び改変を行うことはできません。
- 2 この論文に述べられている見解は筆者個人のものであり、日本証券業協会としての見解を示すものではありません。